

栃木県水稻生育診断情報号外 第1号

令和3(2021)年7月5日現在

栃木県農業試験場

《早植コシヒカリ》

- 出穂期は平年より5～6日早い見込み。
- 本年の稲作期間中の気象は平成27(2015)年と類似している。

1 本年の早植コシヒカリの出穂期について

農業試験場の生育診断圃場におけるコシヒカリ分施区の幼穂長（5月7日移植、7月5日現在）を確認したところ約2mm（出穂約22日前）であり、これより出穂期は7月27日頃（平年より5日程度早い）と推定される。

図1に、栃木県内の早植コシヒカリの出穂期予想メッシュ図を示す。

移植（5月4日）～7月5日までの積算平均気温は、宇都宮市では1214.2℃と平年より66.5℃高く、大田原市では1185.2℃と平年より82.3℃高かった。

平均気温（気象庁）から算出した生育ステージ（DVS値）による早植コシヒカリ（5月4日移植、7月5日現在）の本年の出穂期予測は、下記のとおりである。（表1、図2、3）

幼穂分化の時期、DVS値による予測結果から、本年の早植コシヒカリの出穂期は平年より5～6日早いと予想される。

表1 早植コシヒカリのDVSにおける出穂期予測（5月4日移植、7月5日現在）

今後の平均気温の推進	宇都宮	大田原
平年並	7月27～28日頃 （平年より4日程度早い）	8月1～2日頃 （平年より5日程度早い）
2℃高い	7月25～26日頃 （平年より6日程度早い）	7月30～31日頃 （平年より6日程度早い）

※ 気象庁の平均気温の積算による

2 稲作期間中における過去の気象の類似年について

平均気温からみた移植以降の気象経過（5月第1半旬～6月第6半旬）は、平成27(2015)年と良く似ている。

《 平成 27(2015)年の気象、生育の概要 》

6月は気温、日照ともに平年並で少雨傾向であったが、7月上旬は低温、寡照、多雨となった。出穂期は平年より4～6日早く、出穂期以降、8月上旬は高温・多照・少雨であったが、中旬以降は気象が一転し、8月下旬～9月上旬に低温・寡照傾向となった。

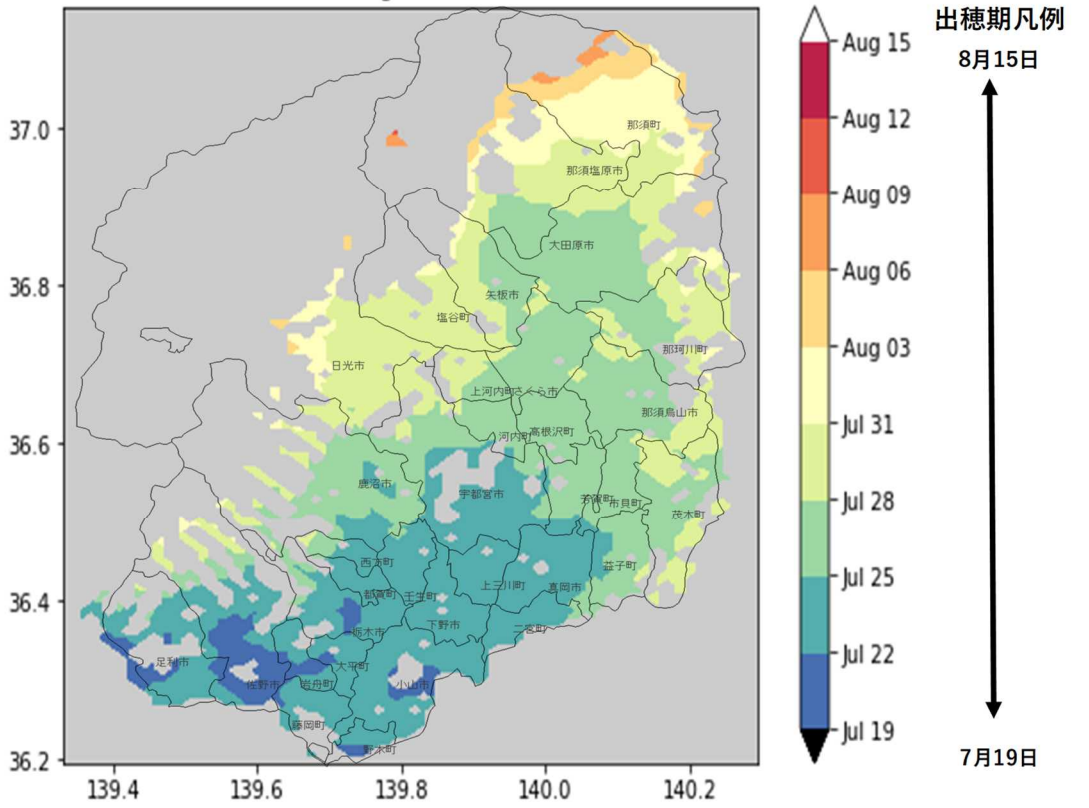
平成 27 年度は、5月 25 日～6月 22 日調査では、莖数は平年を上回って（103～127%）いたが、7月6日には平年比 95%になった。葉色は5月 25 日～6月 22 日は平年よりも 0.1～0.3 淡く、7月は平年並に戻ったが、出穂期以降は再び淡く経過した。7月6日時点の生育診断指標値は概ね適正範囲（平年比 89%）であったため、穂肥は出穂 15～18 日前とした。

成熟期は平年より4日程度早く、収量は平年並（101%）であったが、登熟歩合が低く（84%）、玄米千粒重はやや軽く（98%）、品質は粒張や光沢が劣り、白未熟粒も見られた。これにより、本県の1等米比率は90.3%（平成29年1月31日確定値：農水省調査）と、前年（96.3%）よりも低下した。

令和3年の早植コシヒカリは、現在急速に莖数整理が進み、平成27年と同様に6月末まで淡かった葉色は、平年並に戻りつつある。向こう1ヶ月の気象予測（7月1日気象庁発表、関東甲信越地方）では、気温は平年並～高い確率が70%である。今年は生育が進んでいることから、時期を逸しないように生育診断値に基づき適期に穂肥を施用し、出穂後の高温等による品質低下を防ぐことが重要である。

コシヒカリ 2021年の出穂期

Heading Date-2021



◀◀図1 栃木県内の令和3(2021)年早植コシヒカリ出穂期予測
(7月5日現在) ▶▶

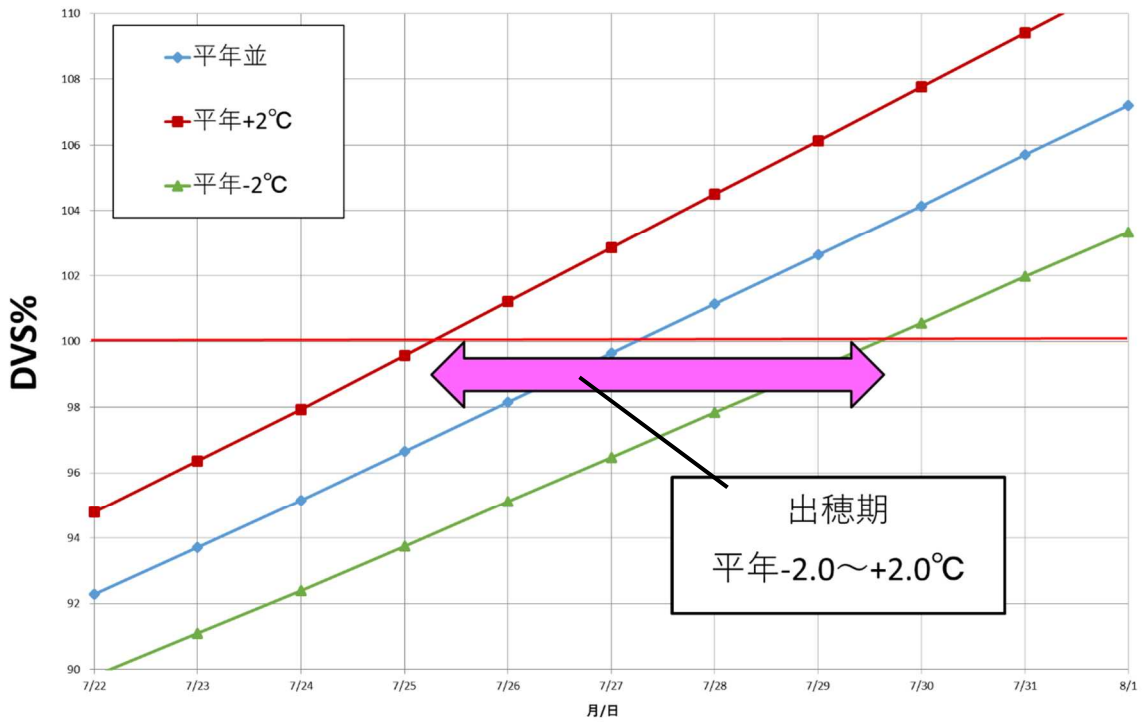


図2 早植えコシカリのDVSによる出穂期予測(7月5日現在、5月4日移植・宇都宮市)

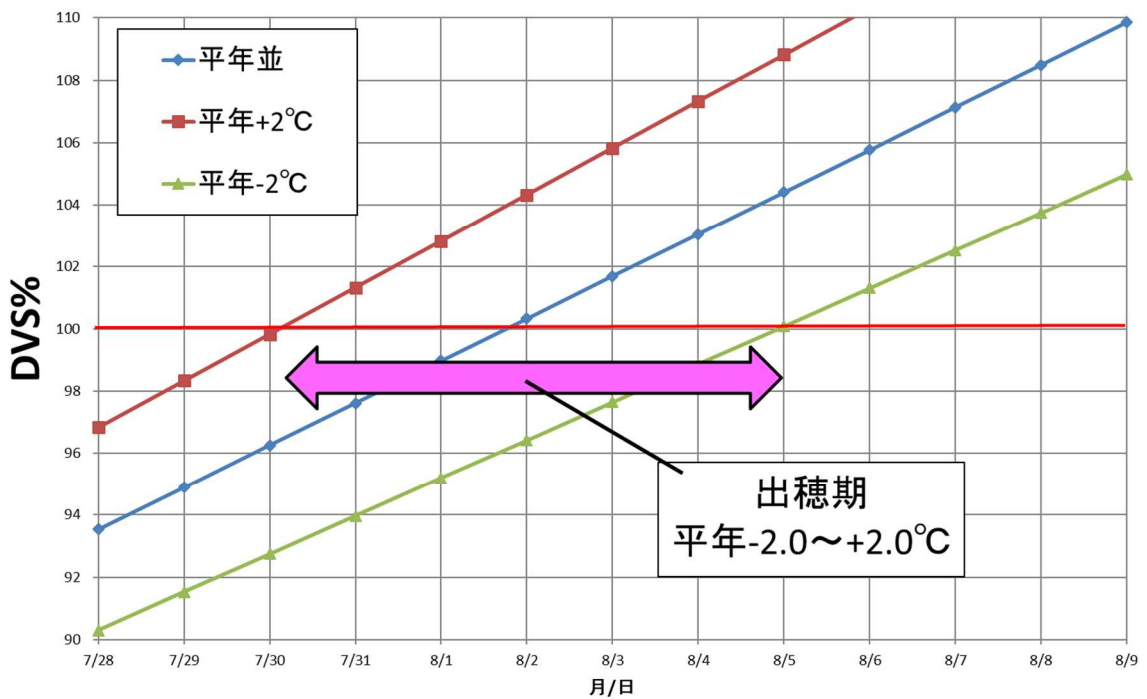


図3 早植えコシカリのDVSによる出穂期予測(7月5日現在、5月4日移植・大田原市)